



2026 年 10 月 20 日

各 位

会 社 名 株式会社ヴィア・ホールディングス
代 表 者 名 代表取締役社長 楠元 健一郎
(コード 7918、東証スタンダード市場)
問い合わせ先 常務執行役員経営推進本部長 羽根 英臣
電 話 番 号 03 - 5155 - 6801

2027 年 3 月期第 2 四半期（中間期）及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2026 年 10 月 20 日開催の取締役会において、2026 年 5 月 12 日に公表し、同年 8 月 12 日に修正しました 2027 年 3 月期第 2 四半期（中間期：2026 年 4 月 1 日～2026 年 9 月 30 日）及び 2027 年 3 月期通期（2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日）の連結業績予想について、下記のとおり修正することを決議しましたので、お知らせいたします。

記

1. 2027 年 3 月期第 2 四半期（中間期）連結業績予想数値の修正について (2026 年 4 月 1 日～2026 年 9 月 30 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 中間純利益	1株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A) (2026年8月12日発表)	8,750	200	150	30	0.66
今回修正予想(B)	8,596	351	307	298	6.53
増減額(B - A)	△154	151	157	268	5.87
増減率 (%)	△1.7	75.5	104.6	893.3	889.3
(ご参考)前中間期実績 (2026年3月期中間期)	8,767	△44	△81	△93	△2.05

2. 2027 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正について (2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A) (2026年8月12日発表)	17,400	370	260	30	0.66
今回修正予想(B)	17,100	520	420	270	5.91
増減額(B - A)	△300	150	160	240	5.25
増減率 (%)	△1.7	40.5	61.5	800.0	795.4
(ご参考)前期実績 (2026年3月期)	17,405	△68	△157	△512	△11.23

3. 修正の理由

当社グループは、2025 年度より、中期経営戦略「未来計画 Next」を始動し、その重点戦略の一つである「収益構造モデルの再設計」のもと、不採算店舗の整理、店舗オペレーションの見直し、生産性の向上及び各種コストの適正化に取り組んでおります。

このたび、2027 年 3 月期第 2 四半期（中間期）の連結業績が概ね判明し、売上高については、8 月中旬以降の週末を中心とした天候不順等の影響により、一部業態において客数が想定を下回ったことから、前回公表予想を 154 百万円下回る 8,596 百万円となる見込みです。

一方、利益面では、当期より実施したワンカンパニー化に伴うグループ横断での人員配置の最適化、仕入・物流機能の集約、DX の活用による店舗オペレーションの改革及び各種経費の見直し、都市部への出店強化による運営の効率化など、「収益構造モデルの再設計」に向けた取組みが想定を上回るスピードで進展しております。加えて、監査等委員会設置会社への移行による経営のスリム化により役員関連費用が減少いたしました。この結果、営業利益は前回公表予想を 151 百万円上回る 351 百万円、経常利益は 157 百万円上回る 307 百万円となる見込みです。

また、2026 年 9 月 30 日付「特別利益の計上に関するお知らせ」において公表しましたとおり、店舗の移転に伴う受取補償金 139 百万円を特別利益として計上することとなりました。前回公表の業績予想には、本件に係る特別利益として 100 百万円を織り込んでいたため、計上額は当初の織込額を 39 百万円上回りました。

さらに、不採算店舗の整理等に伴う費用について、その内容及び金額を精査した結果、特別損失の計上見込額が前回公表の業績予想に織り込んだ金額を 90 百万円下回る見通しとなりました。

以上を踏まえ、税金費用等への影響を勘案した結果、親会社株主に帰属する中間純利益は、前回公表予想を 268 百万円上回る 298 百万円となる見込みです。

なお、通期連結業績予想については、中間期における客数の推移や、物価高に伴う消費者の節約志向などを踏まえ、下半期の売上高についても、前回公表予想に対し中間期と同程度の減少率を見込んでおります。

一方、利益面については、原材料価格や人件費をはじめとする各種コストの上昇など、先行きに不透明な要素があるものの、これまで進めてきた収益改善施策を継続することにより、下半期の営業利益計画は概ね変更しておりません。

以上を踏まえ、通期連結業績予想について、売上高を 17,100 百万円、営業利益を 520 百万円、経常利益を 420 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益を 270 百万円に修正いたします。

以上